

# 千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第66号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

## 大学地理学の 学士力とのかたち

野間晴雄

今回は、軽妙なエッセーを期待した学生諸君にとってはそれを裏切る退屈な文章を書く。しかし真剣に考えてほしい事柄だ。

日本はいま慢性的な経済不況と閉塞感でたいへん弱気になっている。東日本大震災はその流れを決定的にした。企業が新規採用を控え、昨今の学生にとって最大の関心事といえる就職状況はきわめてきびしい。企業自体も新しく人が入ってこないから、若い社員の負担はますますふえ、やりたくない仕事、自分にはあわない仕事を課すとすぐに離職するという悪循環が全国的傾向となっている。

日本では文学部や理学部の大学教員は、自分の関心を最優先させて研究してきたある意味では世間ずれした人間が多い。そんなわれわれが、最近の大学生の基礎学力は落ちてきた、これはゆとり教育にどっぷり浸かってきた弊害とまくしたてる。確かにそういう面も否定できないが、文句ばかりで自分ではその対策を講じにくいため放置してきたわれわれも猛省しなければならない。これだけ大学が大衆化して「ユニバーサル段階」に入ったなら、もはや精神論だけでは通用しない。その仕掛けが必要である。

文科省はこれまで日本の大学の入学＝入口ばかりに口を出し、大学も経営上そこに関心があった。それが「出口」の重要性をやかましくいうようになってきた。授業「15コマ+試験」の義務化や詳しいシラバスもその一環だ。私の学生の頃は、ほんの数行の記載であり、専門科目の場合は科目名と担当者、単位数しか記載のないのもあったから、今とは隔世の感がある。この流れに中央教育審議会の2008年の「学士課程教育の構築に向けて」の答申もある。大学で何を最低限学ぶべきかという科目別の基準づくりが国で進行中である。この流れの先を行くイギリスにならって、日本の大学にも小中高高等学校の指導要領に類する基準が必要との認識である。

イギリスの大学「地理学」の2008年の標準参照基準は、人文環境/自然環境における変化、

自然・人文環境の相互関係、自然・人文環境が与える影響の空間的諸関係、さまざまな空間スケールの場所の多様性と相互依存性の理解、異なる状況での地理的概念の理解、精度や不確実性に対する統合的アプローチ、問題や課題をみつけ定式化・評価し、問題解決アプローチを試みる、情報を総合し関連性を認識する、持続的・合理的な議論の発展、他人の議論の欠点を認め評価する、フィールドワークの調査デザインと実践、地理情報分析のための技術取得とアプローチの多様性の評価、アイデアを新しい状況に適用する力をつけるなどである。つまり、地理的とは空間を分析する技術と考え方を磨きなさいと主張していると私にはとれる。それは地理学の強みである。

そこに抜け落ちているのは何か。地域の理解、地誌的知識と生き抜くための知恵であると思う。中堅の先生4名の協力を得て、11年ぶりに学部専門向教科書『ジオ・パル21』をこの春に『ジオ・パルNEO』として全面改訂するのもその危機感からだ。ただし学生の方も、教師の説明の不親切さを自ら学んで補う積極性が必要だ。

われわれの教室では、巡検、実習、研究法、基礎演習などを通じてできるだけいろいろな場所に学生諸君を連れ出している。また、世界や日本の地誌は重要だし、地名もできるだけ覚え、その具体像を知ることが重要である。そこに卒業論文の軽視という憂う事態がでてきている。「就活」にかこつけて堂々とゼミを休んでも、その借りを最後にしつこく卒論で返してリベンジを果たしてほしい。大学で学ぶ地理学は、いろんな要素や見方を地域で総合できる自己完結性を持ち、内部連関が見えるという特質がある。過度に専門化し分節化した現代の学問のなかであって、それは貴重なものである。小さいながらも、学問の楽しみが誰でも味わえるのが大学の地理学だ。

その証には、「地域調査士」という社団法人日本地理学会が認定する資格がある。地域調査における個人情報保護、法令、人権など、ふだんの講義では聴けない内容の講習会をうければ、4年次の就職活動時には仮認定される。今年も11月25日に関西大学で行う。

(本学教授)

### Contents

Page 1 .....  
巻頭言  
大学地理学の  
学士力とのかたち  
野間晴雄

Page 2 .....  
卒業生だより  
人の支えがあってこそ  
できること  
吉兼崇博

秋の日帰り巡検  
「神戸市街今を歩く」  
1日巡検  
中村圭佑

Page 3 .....  
実習調査報告  
呉市での実習調査報告  
坂元由梨

Page 4-5 .....  
研究ノート  
多文化都市シドニーに  
おけるマイノリティの  
コミュニティ  
舟越寿尚

Page 6 .....  
院生・学部生の業績  
(2011.1~2011.12)

Page 7 .....  
教室だより

Page 8 .....  
随想  
辛卯乙丑備忘録  
(其の壱)  
紀本岳志

Page 2-3,6-7  
卒業生・修了生  
からの一言

妹尾健裕  
地理学地域環境学の個性あふれる教授陣や同僚達が大好きでした。奄美での調査でヒッチハイクをしたことも良い思い出です。またお会いした時に、もっと大きな人間であるように仕事に興味に頑張ります！！

石田夏樹  
地理学の先生方やメンバーと出会って、3年が経ちました。卒業を前に今思うことは、地理学教室は私にとって、温かい場所だったということです。卒業は寂しいですが、また遊びに来ます！！

井上麻衣  
ワールドワークで沖縄に行ける！と思いましたが、沖縄へは行けませんでした。でも、それ以上にとっても優しい先生と教室の仲間に出逢えたので本当にこの教室に入って良かったです♡ありがとうございました！！

大成美紗  
私は地理学専修に入って、とても楽しい時間を過ごしました。少人数でアットホームな雰囲気、たくさんの人と良い関係を作ることができました。飯田での調査など本当になりましたが、充実した大学生活を過ごせました。先生方、たくさんお世話になりました。ありがとうございました。

北窪友美子  
卒業論文はとても大変でしたが、今となっては良い思い出です。地理学でよかったです。

北脇一馬  
地理学教室の先生方を始め、大学院生の諸先輩方々、そして同回生の皆様には大変お世話になりました。大変貴重な経験をすることができました。略儀ですが、皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

橘谷晴菜  
私が地理学に入ろうと思って早4年、多くのことをここで学びました。他のゼミにはない繋がりがこの地理学にはあったと思います。たくさんの方のワクワクを有り難うございました！

鯉沼貴大  
地理学に入ってから3年間はあっという間でした。飯田市の調査実習はとて有意味なものであり、これからの人生の糧となる経験でした。先生方を始め、松井さんと友人達には大変お世話になりました。特に卒論では野間先生に大変なご迷惑をかけ、感謝しきれないくらいです。本当に3年間ありがとうございました。

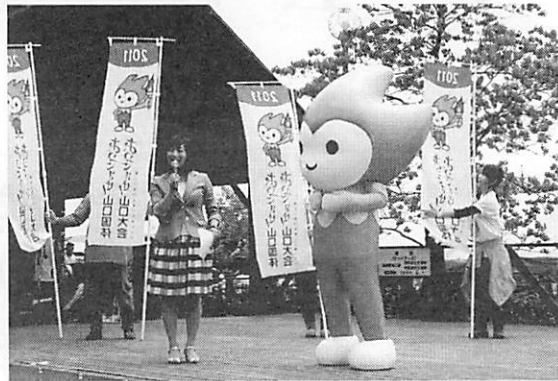
みなさんこんにちは。伊東ゼミを平成18年3月に修了した吉兼と申します。平成20年4月に山口県東部、和木町職員として採用され、現在は教育委員会にて、来館者の受付や電話対応、町民ホールと美術館の管理運営、文化財行政を担当しております。

そのなかでも、約4年間携わった「おいでませ！山口国体（以下「国体」とする）」の業務では、当国体のマスコットである「ちよるる」を着て、国体関連行事をはじめとして、運動会やコンサート、祭り事などの多種多様な町内イベントに出場し、国体のPRを行いました。外見がかわいいとのことから、子ども達を中心に大変人気がありました。

国体の本番は、平成23年10月7日から9日までの3日間、和木町では銃剣道競技が行われました。開会式や表彰式、閉会式、PRタイムなど幾度となく出場する機会がありました。来賓用のドリンクコーナーや配食コーナーなどとの兼務で常に多忙でしたが、大変充実した3日間でした。

和木町は人口が6300人で、町職員は50名、さらに国体事務局はわずか4名で、4名全員が他業務との兼任であり、国体各業務に多くの時間を割くことは不可能でした。

そこで、他課職員や教員、婦人会、PTA、体育協会などの各種団体に対し、国体期間中の各種業務のボランティアを要請しました。そのうえで、エントリーいただいた方を各担当に配



山口国体マスコット ちよるる

置して業務説明会を行い、さらに来町者歓迎のパフォーマンスとして国体ダンスチームを立ち上げ、練習日程を定期的に組むなどし、無事に会期を終了することができました。

これは、小さな町であるが故に、各種団体との絆の強さや、ボランティア精神の高さがあったからこそ成し遂げられたもので、あらためて絆の大切さを感じさせていただきました。この絆を大切にして、今後の仕事に生かしていこうと日々感じております。

※ 国体とは毎年いずれかの都道府県で開催されており、山口県での前回開催が1963年（昭和38年）で48年ぶり。今回は約50年後の予定。

（よしかねたかひろ 山口県和木町教育委員会職員、2006年度博士課程前期課程修了）

秋の日帰り巡検

「神戸市街今を歩く」1日巡検

中村 圭佑

10月30日（日）、神戸の市街地を大学院生5名の案内で歩いた。阪急三宮駅前、さんきたアモーレ広場に10時に集合した。今回のコースは、阪急三宮駅→神戸ムスリムモスク→神戸中華同文学校→関帝廟→ハーバーランド→南京町→神戸港震災メモリアルパーク→元町→旧居留地であった。今回は院生に3人の中国人留学生がいるため、彼女らに関係する地域が巡検先として選ばれた。

神戸中華同文学校では、神戸市は韓国・朝鮮国籍の人が最も多く、次いで中国籍がそれに続く。他の京阪神地区も同様に韓国・朝鮮籍の人の方が多という説明を学校の前で受けた。学校の外観は日本の学校とほとんど同じであったが、校舎のきれいさが印象に残っている。関帝廟では三国志で有名な関羽がお金の神様として祭られていることを初めて知った。

神戸港の跡地のひとつであるハーバーランドへは徒歩で移動した。ハーバーランドは市街地再開発事業で生まれたものだと今回初めて知る。人口減少などの都市問題を改善するために、しかも23haという広さの大規模の事業で、活気を取り戻そうとしていた背景があったことは知らなかった。ここでいったん解散して、三々五々昼食をとる。

昼食後は今まで持ちこたえてきた天気之急に変わり、どしゃぶりの雨となった。次に行ったのが神戸で有名な中華街・南京町である。今の中華街は衰退・再生を経たもので、建築物や外壁や店などのすべての意匠が復興後に創られたのが特色となっている。横浜の中華街と並んで、オールドカマーの中国人らによって形成された飲食店を中心とする一角で、中国風の門を入ると観光客でごったがえしていた。東京の大久保や池袋はニューカマーの中国人によって形成されているとのこと。

また海岸沿いにもどり、神戸港震災メモリアルパークへと行った。メモリアルパークに着いてまず目に飛び込んできたのは、崩れて海に沈んでしまっている岸壁の一部と、その岸壁に今も傾きながら立っている外灯であった。話を聞くよりも、まずこの光景を見ることで震災の恐ろしさが伝わる思いがした。

最後に立ち寄ったのが神戸元町・旧居留地である。ここで説明を受けたが、ますます雨が激しくなり、巡検は少し早めに16時すぎに終了した。神戸の街を実際に歩いてみて神戸の歴史に外国人とくに朝鮮・中国の人たちが関わっていることを知ったのは貴重な体験であった。

（本学2回生）

実習調査報告

呉市での実習調査報告

坂元 由梨

2011年10月3日～7日の4泊5日で、地理学・地域環境学の実習調査を広島県呉市で行った。

1日目、新幹線と呉線を乗り継いで呉駅に11時に到着。午前中に大和ミュージアムを見学した。ボランティアの人に説明を受けながら見学したのだが、実際の1/10の大きさの戦艦大和をはじめ、零戦やミサイルなどの大型資料が数多く展示されており、とても見ごたえがあった。午後はミュージアムの会議室で、呉市全体のことを市役所の担当部署の方から説明を受けたのち、班ごとに分かれて分野ごとのお話をうかがい質問もした。私は農業班なので、大長みかんの色々なことを聞くことができた。

2日目からは上蒲刈島の県民の浜に宿泊して、現地調査を5班（自然、都市、集落・観光、生活、農業）ごとに行った。私たちは3日間、豊町大長を調査した。みかんの収穫は10月からだったので実際に収穫したばかりのみかんやレモンで、どれが一級品や規格外かなどを見ることができた。みかんの選果機も見学させてもらったが、予想より大きな機械で驚いたが、その機械の作動のようすが見るができなかったのは

残念だった。大長の方々はとても優しく、いきなりアンケート調査をお願いしても快く引き受けてくださった上に、みかんやレモンをお土産にと何人もの方からいただいた。3日間アンケート調査を頑張ったのだが、予定の数が集まらずどうしようかと困っていたが、大長の自治会長さんの提案でアンケートを何人かに渡してもらい、郵送してもらうこととなった。そして25通渡してもらったうち、21通も回収できて、大長の方の優しさを感じる事ができた。

泊まったところでは、夕食はすき焼き、焼き肉、鯛しゃぶと毎回とても豪華なメニューで、外湯の温泉もあってゆっくりできた。夕食の後は全員でミーティングをしたのだが、私たちの班だけ他の班が終わって帰ってからも、ずっと話し合いをしていたことが印象深く残っている。島の海もとてもきれいで澄んで見え、上のほうから眺めた景色もよく、観光として楽しい部分もあった。より良い報告書を完成させることによって協力してくれた方々に感謝を表せるように頑張りたい。

(本学3回生)



大和ミュージアムでの集合写真



大長での聴き取り調査（生活班）

小西雅人  
地理学では、少人数での授業が多く、多くの友人に恵まれた。素晴らしい先生に出会った。卒業してからも卒業生として活躍したい。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。

佐々木幸枝  
地理学に入ってから3年間は、息を吐いてばかりで、楽しかった。多様な人々と出会った。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。

田辺麻希  
私は実は最初、地理学に入るつもりではなかったのですが、今となっては、地理学で学んだことは、社会で役に立つ。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。地理学で学んだことは、社会で役に立つ。

中辻真央  
地域環境学の中辻です。今までお世話になりました。卒業は大変だったけれど、達成感がありました！

西川紗世  
長野での巡検と報告書の作成は大変でしたが、貴重な経験ができました。また地理学の楽しさを知ることができて、地理学専修に進んでよかったと感じています。本当にありがとうございました。

橋本敬吾  
地理学・地域環境学教室で過ごした3年間は、素晴らしい出会いと、かけがえのない時間を与えてくれました。先生方や高年の仲間とめぐり会えたことに感謝します。ありがとうございました。また関大へ遊びに行きます。

春名由貴  
今までお世話になりました。本当にありがとうございました。地理で過ごした3年間は、濃く、調査などで大変なこともありましたが、やはり今となっては楽しい思い出でいっぱいです。卒業しても、また会いましょう！！

古市良太  
僕は皆に、先生方に助けて頂きっぱなしのどうしようもない学生でしたが、それでも思いだしてみたら笑顔があふれていたこともあったので、それです。

堀川三夏  
地理学で本当に良かったです。先生も皆優しく楽しく過ごしたです。お世話になりました！！

宮本郁子  
私は志望していた専修に入らず、地理学になったのですが、今となっては地理学に入れたことに良かったと思います。先生方や地理学の皆様のおかげです。ありがとうございました。卒業後はお金をたくさん稼いで、伊東先生のように海外を飛びまわります。

2012年3月末 刊行予定

『広島県 呉市・芸南諸島の地理』  
(地理学・地域環境学実習報告書 (36) 2011年度)

- I. 地域の概観
- II. 呉市中央地区の急傾斜地の利用と災害
- III. 呉市の中心商業地区と呉駅南地区の都市開発
- IV. 芸南諸島における住民の生活行動—三之瀬・大長集落を事例に—
- V. 大規模集落大長の柑橘栽培と櫓祭り
- VI. 港町御手洗と三之瀬における歴史的景観の活用と創造

## 多文化都市シドニーにおけるマイノリティのコミュニティ

舟越 寿尚

### 1. はじめに

現在、オーストラリアでは国家をあげて多文化主義政策に取り組んでいるが、過去に白豪主義政策を取ったことは多くの人が知るところである。1788年にシドニーから開拓が始められたオーストラリアは、主にイギリスからの入植者によって開発がすすめられ、国自身もヨーロッパ系の移民および国民を求めている。しかしながら地理的条件ならびにゴールドラッシュなどを契機に、アジア系移民が増大する結果となり、1877年の「中国人移民制限法」や1896年のNSW（ニューサウスウェールズ）州における「有色人種制限及び取締法」の制定など、白豪主義政策を強化することとなった。

多文化主義政策への転換を図る契機となったのは、第二次世界大戦後の大量移民受け入れ計画である。この計画も白豪主義を強化するための策であったが、実際には東欧・南欧・中近東からの移民が多く流入し、白豪主義政策の軟化や転換をしていかざるをえない状況となった。白豪主義を捨てて多文化主義へと、政策転換が決定的となったのは、1975年の「人種差別禁止法」制定である。

本稿は、このようなオーストラリアの歴史的背景や地理的条件によって、もたらされることとなった多様な人種および文化が、都市内で各々に独自のコミュニティを形成し、それがどのように現代の都市活性化と関与しているのかを考察するものである。

### 2. 移民および多文化主義に対する取り組み

オーストラリアでは政府はもちろんのこと、州や地方自治体、教育現場や企業レベルでも、様々な多文化主義に対する取り組みが行われている。その取り組みは大きくわけて二つあり、一つは移民に対する直接支援、もう一つは文化の多様性を受容できる社会推進である。

移民に対する直接支援の例としては、政府による通訳・翻訳サービスが挙げられる。これは全国どこからでも利用可能な通訳・翻訳サービスで、約170言語、通訳サービスは24時間365日対応できる体制が整っている。通訳形式は電話通訳もしくは現場派遣で、基本的には有料であるが、公的機関とのやりとりについては無料である。翻訳サービスについても一般的には有料であるが、一定要件を満たす場合には無料となる。また、多言語放送サービスも用意されている。テレビ・ラジオともに60以上の言語で放送されている。各国のニュースが主であるが、異文化理解のテレビ特番が組まれることもあり、文化の多様性を受容できる社会推進にも一翼を担っていると言える。さらに企業レベルでの例を挙げると、銀行ATM

は英語以外にも8か国語に対応しており、取引開始の画面で言語を選択することが可能である。

文化の多様性を受容できる社会推進の例としては、多文化や多民族をテーマとするイベント開催が挙げられる。シドニーで毎年開催されるイベントの一例を挙げると、International Food Festival Chinese New Year Festival, Gay and Lesbian Mardi Grasなどが挙げられる。なかでもGay and Lesbian Mardi Grasは同性愛者グループ主催のイベントで、同種のイベントでは世界最大規模のものであるが、同性愛者だけではなく一般市民も楽しめるようなプログラムも用意されている。2011年度は30万人以上もの人々がパレードの観覧に訪れた。また、このイベントには毎年大手企業が協賛し、シドニー市長や著名人が参加することも特徴である。2012年度はANZ（オーストラリア最大手銀行）やGoogleが協賛する。

### 3. シドニーにおけるマイノリティのコミュニティ

シドニーでは人口の約4割が外国生まれであり、出生国の上位五か国はオーストラリアに次いでイギリス、中国、ニュージーランド、ベトナム、レバノンの順である。また家庭内で話されている言葉の調査では、英語、アラビア語、広東語、マンダリン、ギリシア語、ベトナム語の順が多い。このようにイギリス圏ならびに英語圏以外で生まれた者が多く居住するシドニーでは、それぞれがある程度セグリゲートしながら、商業地やコミュニティを形成している。

シドニーCBDの約14km西に位置するストラスフィールド Strathfield では、住民の約6割が外国生まれであり、韓国・中国・インド生まれの住民が多くなっている。なかでも韓国人が一番多く、シドニーでは韓国人街として有名なサバーブである。実際にストラスフィールド駅周辺にはハングル文字があふれていて、韓国人および韓国系の人向けの、小売店や飲食店、不動産屋などが軒を連ねている。また、同じくシドニーCBDから約5km西のライカート Leichhardt ではイタリア系の住民が多く、このエリアにはイタリア料理店や窯焼きの本格的なピザを提供する飲食店が多数あり、イタリア人コミュニティセンター及びイタリア人学校も立地している。住民の出生国データを見ると、オーストラリア生まれが住民の約6割を占めていて、次いで、イギリス、イタリア、ニュージーランド、ギリシア、アイルランドの順で多くなっている。イギリス生まれとイタリア生まれの住民数は僅差であり、アジア生まれの住民は圧倒的に少ない。イタリア系住民よりもオーストラリア生まれの住民が圧倒的大多数になっているのは、イタリア系住民が既に二世三世の世代となっているからとみられる。

シドニーは、同性愛者の人口が世界で二番目に多い都市と言われている。実際に同性愛者のコミュニティも形成されていて、このことは広く一般的に知られている。大規模なものは、Gay and Lesbian Mardi Grasでもメイン会場となるオックスフォードストリート Oxford St. を中心とした、シドニーCBDに近接するエリアである。このストリートではほぼ年間を通し、同性愛者のシンボルカラーであるレインボー色の幟を掲げることにより、同性愛者の街であるということ的印象付けている。このエリアには同性愛者向けのパブやクラブ、アダルトショップなどがみられるが、一般の酒屋やレストランなども立地している。このような一般の店でも、その多くが店舗入口や店内にレインボー色の旗を飾り、同性愛者を歓迎するサインを示している。またニュータウン Newtown にも小規模なものが形成されている。ここはパンク・ロック



写真1 銀行ATMの取引開始画面（撮影者：舟越）

表1 オーストラリア、シドニー、ストラスフィールド、ライカート、各地域住民の出生国上位5カ国と住民数および割合

| Australia   | total persons | % of total persons | Sydney      | total persons | % of total persons |
|-------------|---------------|--------------------|-------------|---------------|--------------------|
| Australia   | 14,072,944    | 70.9%              | Australia   | 2,486,709     | 60.4%              |
| England     | 856,939       | 4.3%               | England     | 145,261       | 3.5%               |
| New Zealand | 389,463       | 2.0%               | China       | 109,142       | 2.6%               |
| China       | 206,591       | 1.0%               | New Zealand | 81,064        | 2.0%               |
| Italy       | 199,121       | 1.0%               | Viet Nam    | 62,143        | 1.5%               |
| Viet Nam    | 159,850       | 0.8%               | Lebanon     | 54,500        | 1.3%               |

| Strathfield | total persons | % of total persons | Leichhardt  | total persons | % of total persons |
|-------------|---------------|--------------------|-------------|---------------|--------------------|
| Australia   | 8,441         | 41.2%              | Australia   | 7,807         | 63.7%              |
| Korea, Rep. | 1,762         | 8.6%               | England     | 587           | 4.8%               |
| China       | 1,638         | 8.0%               | Italy       | 534           | 4.4%               |
| India       | 1,599         | 7.8%               | New Zealand | 381           | 3.1%               |
| Hong Kong   | 534           | 2.6%               | Greece      | 88            | 0.7%               |
| Sri Lanka   | 503           | 2.5%               | Ireland     | 78            | 0.6%               |

Australian Bureau of Statistics 2006 より

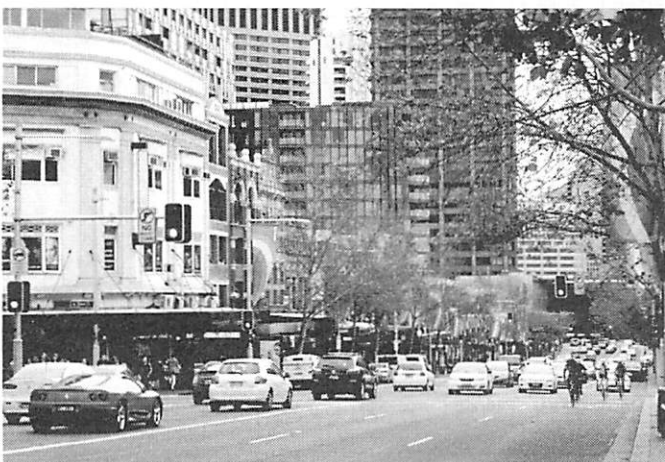


写真2 オックスフォードストリート (撮影者：舟越)

ク文化を中心とするボヘミアンな街としても有名で、パンクファッションの衣料雑貨店、CD ショップや楽器屋も多数みられる。

これらはその一例に過ぎないが、シドニーにはマイノリティによってもたらされた多種多様な文化が混在しており、彼らによって営まれ形成されている商店やコミュニティが数多くみられる。そして、それらは閉ざされたものではなく、そのコミュニティに属さない人でも、訪れ、楽しむことのできる場所として、開かれているものであることが特徴である。

#### 4. まとめ

アメリカの社会学者である Richard L. Florida は、著書である *The Rise of the Creative Class* (2002) で、「経済の発展や成長には3つのTが必要」と訴えている。3つのTとは、Talent (才能)・Technology (技術)・Tolerance (寛容性) である。また彼は「クリエイティブクラスやゲイの集まる都市が発展する」とも唱えている。クリエイティブクラスとは、自らの創造力で作品を生み出す芸術家やデザイナー、あるいは高度な技能や専門性を要する技術・研究職に就く人たちであり、流行の先駆者、あるいは文化発信に大きく関わる層でもある。

東京ディズニーリゾートは、もうすぐ開園30周年を

迎えようとしているにもかかわらず、絶えず新しいアトラクションを提供することなどにより、新規客だけでなくリピーターも多く集めていて、なかには東京ディズニーランドマニアと言われるようなコアなファンまで存在する。それは訪れるたびに新しい発見や楽しみがあり、非日常的な体験ができる場所であるからに他ならない。それを都市に置き換えてみると、常に新しい発見や楽しみの無い都市は魅力の無い場所となり、成長がストップして衰退する一方である。都市はハード(建物など)およびソフト(文化など)共に、スクラップ・アンド・ビルドを繰り返す場であり、常に開発を続け、文化発信をしてゆくことが重要である。そのための一つの手段として、マイノリティのように違った文化や価値観を持つ者が、独自の文化や才能を発揮できる環境や居場所をつくるのが、国家や都市レベルではもちろんのこと、個人レベルでも必要とされている。

これからの都市はシドニーのように、時代と共に多様になった価値観やライフスタイルに対応できる、古い慣習ばかりにとらわれない柔軟で大きな受け皿、そして多様性と創造性に富んだ文化や良質なコミュニティが存在するかどうか大きなポイントで、これらを活かすことで街に個性が生まれ、しいては都市全体の継続的な成長や発展に大きく関わることとなるのではないだろうか。

(本学文学研究科大学院・博士課程後期課程)

#### 参考文献

- 阿部和俊編『都市の景観地理 イギリス・北アメリカ・オーストラリア編』(第10章シドニーにおける文化の観光資源と景観 吉田道代)古今書院 2010 pp.76-83  
 リチャード・フロリダ著 井口典夫訳『クリエイティブ資本論—新たな経済階級の台頭—』ダイヤモンド社 2008  
 リチャード・フロリダ著 井口典夫訳『クリエイティブクラスの世紀—新時代の国、都市、人材の条件—』ダイヤモンド社 2007  
 陶山宣明「オーストラリアの移民政策改革—白豪主義の終焉—」オーストラリア研究紀要 27 2001 pp.41-60  
 関根政美「多文化社会オーストラリアと中国系オーストラリア人」オーストラリア研究紀要 21 1995 pp.99-128

Australian Bureau of Statistics 2006

**森 貞澄**  
フィールドワークなど実際に自分の足で歩き、自分の目で見ることを大切にしている。地理学は、自分で納得できるまで確かめないと気がすまない。私にとって、とてもおもしろい学問である。楽しい中で、自然と目の前のことに疑問を持つ癖が身につく。この力がこれからは社会人生活にも活かせると思うので、通して得られました。こうした力を得たことに嬉しく思っています。先生方には本当に感謝しています。これから学ぶ後輩の方たちにもぜひ楽しんでもらいたいです。

**森島宏典**  
地理学専修では3回生の実習調査や4回生の卒業演習でとても濃い時間を過ごさせてもらいました。その知識を多く得られたと思います。ご指導としてくださる先生方がありがとうございました。

**山田翔太**  
今までお世話になりました。入学した頃は地理を専攻するとは全く思っていませんでしたが、いい仲間に出会えて楽しく大学生活を過ごしました。最高の仲間と、実習やゼミでお世話になりました。先生方に感謝します。これから地理学を学ぶ方、実習報告書や卒論を仕上げたい方は大変ですが、仲間と一緒に頑張ってください。

**山野千沙希**  
地理はみんな個性豊かです。先生、地理一歩のみならず、ありがとうございました。

**山本奈緒**  
大学4年間、お世話になりました。3年の飯田市での調査は、大学生活の中で最も大変だった思い出です。ですが、報告書完成させた後は達成感がありました。今となっては羨望の念がなくなりましたが、ありがとうございました。

**山本浩貴**  
地理学専修の人はいい意味でぶっ飛んでるので、今までの価値観が広がったと思います。またどこかでお世話になる機会があるかもしれないですが、その時はよろしくお願ひします。

**項 磊**  
4年間の楽しさと辛さは半々でした。充実した授業の楽しい時間と試験前の猛勉強の辛い感覚は半々でした。3、4回生の時、単位がほとんどとれた時の楽しさと、卒業論や就職に迫られている時の辛さは半々でした。この充実した半々感覚は最高でした。

**逸本茉莉子**  
学部から続いて、6年間も関西大学にお世話になりました。大学院に入ってから2年間は本当にあってという間でした。先生方には大変お世話になりました。しっかりと金をためてまた大阪にも遊びに来たいと思います。ありがとうございます。

**【学会発表】**

- 喬 成立 2011. 通年モニタリングによる都市河川北摂千里川にみられる河畔植生の季節区分. 関西大学史学・地理学2011年度大会. 2011年12月3日(関西大学).
- Gurung Roshan 2011. ダージリン・ヒルステーションの形成と茶エステートの展開. 2011年4月30日. 第5回東アジア沿海科学研究集会(関西大学).
- 小泉邦彦 2011. 東日本大震災の教訓を生かした地理・防災教育—「温度差」のある関西の教育現場からの提言—. 「東日本大震災シンポジウム: 地球人間圏の視点—東日本大震災の教訓を生かして南海・東南海地震に備えるために—」(日本地球惑星科学連合地球人間圏セクション主催). 2011年10月9日(関西大学). [野間晴雄・下村勝哉と共同発表].
- 竹下裕隆 2011. 金魚: その人間との関わりの文化史と生産の現状. 関西大学史学・地理学2011年度大会. 2011年12月3日(関西大学).
- Tran Thi Mai Hoa 2011. Typologies and Trend of Ecotourism Development in Japan: Case Studies in Akkeshi Town (Hokkaido) and Iida City (Nagano). 10th Asia Pacific Forum for Graduate Students' Research in Tourism: Emerging Tourism and Hospitality Trends. 2011年7月15日. (ネバダ大学ラスベガス校シンガポールキャンパス). [野間晴雄との共同発表].
- Tran Thi Mai Hoa 2011. Tackle the niche market of ecotourism based on school excursion— A case study in Iida City, Nagano Prefecture —. 人文地理学会大会. 2011年11月13日(立教大学). [野間晴雄との共同発表].
- 橋本敬吾 2011. 小田井用水—渡井と伏越を駆使した段丘上の灌漑—. 月刊地理56巻8号. 68-71頁 [野間晴雄との共著].
- 舟越寿尚 2011. 多文化都市シドニーの商業地とコミュニティ. 関西大学地理学研究会第98回例会. 2011年12月10日(関西大学).
- 李 巍 2011. 中国東北部における食文化の変遷について—満州族と朝鮮族の食文化を事例として—. 関西大学史学・地理学2011年度大会. 2011年12月3日(関西大学).

**【論文等】**

- Gurung Roshan 2011. インドにおける中国茶・アッサム自生茶の移植・栽培の相克についての考察. 関西大学文学論集. 第61巻1号. 65-92頁. [野間晴雄との共著].
- Gurung Roshan 2011. ネパール茶業の現状と課題—東ネパール・イラム郡茶業の特色—. 千里地理通信第65号. 4-5頁.
- 小泉邦彦 2011. 野外で学ぶ中学校地理の可能性. 月刊『地球』第386号(総特集 野外の学としての地理学の軌跡と展望). 702-707頁.
- 松井幸一 2011. 湧水のコスモロジーと集落構成. 月刊『地球』第386号(総特集 野外の学としての地理学の軌跡と展望). 681-685頁.

**【学位論文】**

- 上野 裕 2011.9. 都市空間形成における地理学的研究—都市の基盤整備事業と空間行動—(主査 伊東 理).
- Gurung Roshan 2012.3. インド世界における茶の栽培・拡大とティー文化形成に関する文化交渉学研究—アッサム・ダージリン、ネパール・イラム地域を中心に—(主査 野間晴雄).

**野間先生. 人文地理学会2011年度(第11回)学会賞受賞**

人文地理学会学会賞の2011年度については学術図書部門で2名、一般図書部門1名、論文部門2名の方々が受賞された。野間晴雄先生が受賞された書籍は下のもので、学術図書部門での受賞である。すでにこの書籍の内容については「千里地理通信」第61号で報告している。『低地の歴史生態システム—日本の比較稲作社会論—』関西大学出版部2009年。

なお、この学会賞は高橋先生が第5回(2005年)で受賞しておられ関西大学では二回目の快挙である。なお、報告が遅れてしまったが、本校に長年非常勤講師として出講いただいている卒業生の三木理史氏(現・奈良大学文学部地理学科准教授)も人文地理学会2010年度(第10回)学会賞受賞(一般図書部門)を次の著書で受賞されている。『局地鉄道』塙書房2009年。この年は学術図書部門1名、一般図書部門1名、論文部門1名であった。卒業生がこのような業績を積み上げて行かれることに大きな誇りを感じるところである。

## 教室だより

## ■ M1・D 中間発表会

2011年10月1日(土)11時～16時30分まで地理学実習室にて行われた。発表者は地理学・地域環境学専修から、舟越寿尚、徐 笠凡、竹下裕隆、張 瑩、李 巍の5名、文化交渉学専修からは、董 振江、宋 琛の2名であった。

## ■ 地理学・地域環境学実習

2011年10月3日(月)～7日(金)にかけて、今年度は広島県呉市にて実習調査を行った。指導教員は伊東、野間。TA 1名、院生4名、3回生20名で実施。調査内容は、自然災害・都市開発と商業・鳥しょ部の生活行動・柑橘栽培・歴史的景観などの項目で、2012年3月末日に調査報告書『広島県 呉市・芸南諸島の地理』が刊行される予定である。

## ■ 東日本大震災シンポジウム

2011年10月9日(日)13時～18時15分まで百周年記念会館ホールにて、日本地球惑星科学連合 地球人間圏セクション主催の「東日本大震災シンポジウム—地球人間圏学の視点—東日本大震災の教訓を生かして南海・東南海地震に備えるために—」が開催された。関西大学からは副学長ほか教員3名、教室からは現役の学生ならびにOB・OGとも多数の参加があり、野間晴雄と小泉邦彦が「東日本大震災を生徒に教えるための指針策定と教材作成—「温度差」のある関西の教育現場からの提言—」の連名発表を行った。

## ■ 秋の日帰り巡検

2011年10月30日(日)に秋の日帰り巡検が開催された。“神戸市街地のいまを歩く”をテーマに下記コースをまわり、大学院生が要所にて説明を行った。また、非常勤講師の水野浩先生にも適宜、神戸の建築物についてご説明を頂いた。終日の悪天候にも関わらず、教員3名、学生は約50名が参加し、非常に有意義な一日となった。コース：三宮駅—神戸モスク—神戸中華同文学校—関帝廟—ハーバーランド<昼食>—南京町—神戸港震災メモリアルパーク(メリケンパーク内)—大丸デパート神戸店—居留地計画図銅版—三宮駅

## ■ 地域調査士講習会・専門地域調査士講習会

2011年11月27日(日)9時～18時10分まで、第二学舎 A502 教室にて、(社)日本地理学会資格専門委員会主催、地域調査士講習会および専門地域調査士講習会が開催された。当教室からは教員3名も含め、7名が受講した。

## ■ 地理学研究会(第99回研究例会)

2011年12月10日(土)15時～18時まで第一学舎 A301 教室にて、地理学研究会が開催された。M1により呉市実習調査の報告がなされたのち、舟越寿尚「多文化都市シドニーの商業地とコミュニティ」、森本英揮「日本列島の地形発達に係わる地殻変動の推考」、野間晴雄「インド亜大陸におけるネパール地域歴史文化の特異性—パハール、テライ紀行—」の講演が行われた。例会終了後は同室にて懇親会が開催され、

現役生ならびにOB・OGからも多数の参加をいただき、親交を深める良い機会となった。

## ■ 課程博士申請論文公聴審査会

2012年1月23日(月)16時～17時まで尚文館501教室にて、Gurung Roshan氏の課程博士申請論文「インド世界における茶の栽培・拡大とティー文化形成に関する文化交渉学的研究—アッサム、ダーズリン、ネパール・イラム地域を中心に—」の公聴審査会が行われた。教員および学生、合わせて約20名の参集のなか、活発な議論が展開された。

## ■ 韓日共同国際シンポジウム

済州島で開催。東アジア沿海科研・大韓建築学会済州支会・関西大学東西学術研究所共催で「交流からみた韓国と日本の風土と暮らし—すまい・景観・経済—」を11月4日(金)に済州道立美術館で開催。教室・OBからは、伊東 理、野間晴雄、石坂澄子、Tran Thi Mai Hoa、松井幸一、水谷彰伸、舟越寿尚、矢嶋 巖、西岡尚也が参加した。野間晴雄「朝鮮農耕システムの核心と南北の拡がり—西九州から中国東北地方まで—」、水谷彰伸「近代朝鮮における繊維産業の諸相」の2名がパネルディスカッションを行った。石坂澄子が司会進行を務めた。現地滞在中は徒歩・バスで巡検を行い、朴賛弼先生(法政大学)・山元貴継先生(中部大学)のご案内で、済州市山地川、西帰浦市街地の日本式住宅、城邑民族村、城山日出峰などを見学した。

## ■ 教員の国外出張

野間晴雄：①2011年11月3日～5日 韓国。科研費によるシンポジウム参加。②2012年2月22日～3月2日 オランダ、ベルギー、イギリス。科研費による植物園・プラントハンター調査。

伊東 理：①2011年11月3日～5日 韓国。科研費によるシンポジウム参加。②2012年1月5日～3月31日 ニュージーランド、オーストラリア。関西大学在外調査研究員として、オセアニアの大都市圏と中心地の動向に関する研究のため滞在中。

## ■ OB・OGの近況

2009年3月に関大で博士号を取得された松原光也氏(京都大学大学院工学研究科・都市社会工学講座特定助教)が学位論文をまとめた著書『地理情報システムによる公共交通の分析』(多賀出版、2010年3月刊行)が、2011年度の日本都市学会賞(奥井記念賞)を受賞された。氏は奈良大学大学院修士課程(地理学)を修了後に本学の博士後期課程に入学され、修了後に関西大学政策グリッドコンピューティング実験センターの特別任用研究員などを務められた。自ら鉄道ファンであるとともに、LRTのGISを用いた計量分析やローカル私鉄の保存活動にも活躍されている。

## ■ 2011年度卒業論文優秀者表彰

小西雅人(3月19日に表彰)

橋 成立  
2年間大学院の生活が楽しかった。学校の皆もやさしいし、外国人としての私は感動した。日本で就職も決まっているので、いつても遊びに来られるよ(ハO)

増田 妃  
私は本当に駄目な学生でしたが、フィールドワークはとても楽しかったです。先生方や多国籍の学生、先輩、後輩と色々な話ができて、見聞を広げさせてもらいました。ここで学んだことや好奇心を一生忘れずに勉強を続けたいです。皆様本当にありがとうございました。

張 旭  
文化交渉学M2の張旭です。この2年間高橋誠一先生のもとに歴史地理に関する研究をつとめていました。歴史地理学に関しては、生まれてから、初めて系統的に勉強しました。とても光栄だと思っております。たくさんの知識を身につけ、視野にも広がられました。ここで、感謝の意を表したいと思います。これからも精一杯がんばりたいと思っております。

張 立宇  
この2年間を振り返ってかなり勉強になりました。歴史地理学に対しての認識を深めました。私とともに地理学で勉強や研究をしている皆様のおかげで「勉強は最高の遊び」がわかりました。この場を借りまして、地理学の皆様に感謝の意を申し上げます。

董 振江  
私は関西大学地理学教室に6年間通った、地理専修で初めて学部卒業した留学生となつて、とてもうれしい。そして、地理をまだまだ勉強したいから、修士まで修了した。この6年間は、いろいろなところを巡検や調査をしたことは本当に面白かった。ほかの分野と比べて、地理専修は本を読むだけではなく、もっと社会的な実践できる専修である。特に、野間先生のおかげで、2回の海外での現地調査が実施できた。地理の現地調査は、準備、実施、報告書の作成というプロジェクトは、自分の成長にとってもいい訓練である。地理専攻の皆さん、ぜひ、地理教室のいろいろな巡検と調査を真面目に、大事にしてください。

上野 裕  
大学院での3年半、夢のような時間でした。勉強する機会、そしてご指導をいただきました先生方に心よりお礼申し上げます。若い院生の方々の学びは新鮮で大きな刺激となりました。ありがとうございました。

Gurung Roshan  
私は文化交渉学専修に所属していたにも関わらず、地理学の先生方をはじめ、多くの学生から様々なことを学ぶチャンスに恵まれました。その結果、このたび博士論文を無事提出することができました。皆さんに心から感謝します。

随想

# 辛卯乙丑備忘録 (其の壱)

紀本 岳志

環境地理の非常勤講師を勤めさせていただいて丸4年になる。琵琶湖の総合観測調査研究で御一緒させていただいた、中西正己名誉教授（京大生態学研究センター・総合地球環境学研究所）の後任である。専門は、環境分析化学というもので、掻い摘んで言えば、産業活動の結果、自然界に放出されたさまざまな汚染物質の濃度を測定する方法や装置を開発する分野である。

この分野は、第二次世界大戦後の世界経済の急激な成長の副産物として社会問題化した、いわゆる公害問題に端を発する。もちろん、戦争が最悪の汚染問題をもたらすものの一つではあるが、かつてトルストイが『科学者は、ほうっておけば世界中のテントウ虫の数を勘定し始める』と揶揄したような「主知主義」の時代ならいざ知らず、「国家のための科学」思想が正当化された世界大戦中では決して社会問題とならず、ましてや戦時に汚染濃度を測定しようと思う人はほとんど出てこない。環境問題は、戦後の経済復興の中で初めて顕在化した。

さて、戦後の世界経済成長の波に乗って、我が国も「世界の工場」と言われるまでに産業は急速に回復したが、その反面、工業地帯では欧米に比べ極端に人口密度の高い状態となり、激甚な汚染に悩まされることとなった。この数万人以上の規模での被害者を出した四大公害問題に代表される深刻な社会問題に対処するため、1950年代後半に入って各地で汚染物質の調査観測が開始された。

以来、半世紀以上にわたる環境問題の歴史の大半を傍らで眺めながら測定装置の開発に取り組んできたが、その間、観測データの間違いに気づかなかつたり、新しい観測データが取れたにもかかわらず間違っただけの解釈をしたりすることが幾度もあり、その度に、自然を知ることは難しいことだと思ひ知らされた。そしてまた、昨年3月11日の東日本大震災と福島原発事故で、「科学者」の陥りやすい「思いこみ」や「驕り」が、かつての公害問題の時と同様に再び露呈したように思う。

『陛下、科学は誤りのないものですが、学者が間違えます』

20世紀初めのフランスの作家アナトール・フランスの短編「バルタザール」に登場する占星術の賢人サンボピティスの言葉である。バルタザールは、キリスト生誕の時に星に導かれる東方の三博士の一人であるが、若い頃、シバの女王との恋愛に破れ、学問に目覚め星占いの研究を始める。しかし、あまりにも当たらないので、そ

の疑問を師であるサンボピティスに尋ねたときの答えとして描かれている。

本来、自然科学は、その発明者フランシス・ベーコンの言葉を借りれば『自然の下僕である人間は、その観測し得た以上に自然を知ることはできない』ものであり、それゆえに、未知の自然に取り組み（みて）、観測データを取り（はかって）、それを「くらべて」「かんがえる」ことで「帰納的」に仮説を立て（なんでやると考える）、それに基づいて再び観測を行う（ほんまかいなと確かめる）、という繰り返しにより、より普遍的な法則に近づくという過程である。「みて、はかって、くらべて、かんがえる」のスパイラルこそが「科学の方法」である。

しかし、「科学者」も人の子で、現代の細分化された専門分野毎の「村社会」で今までの成果に寄り添って仲間と暮らすほうが居心地がよいし、歳を重ねるにつれ「権威もどき」が内臓脂肪のように取り憑いてくるので、面倒くさい「科学本来の方法」を遠ざけてしまうようになる。

となると、今まで大体分かっている範疇から抜け出すことが難しくなり、さらに、他分野との境界領域や学際的な分野へ乗り出すなどということは「想定外」で、逆に、そのような行為に対して狭い「世間」から「奇異の目」が向けられることとなる。

合わせて、そのような「村」に暮らし始めると、だんだんと今までの考えに合わないデータが出てこなくなるから不思議である。

『人間は、気づかぬうちに自らの推理に都合のいいようにデータを合わせてしまう。本来はデータから推理しないといけないのだが・・・』（シャーロックホームズの冒険より）

現代の我々は、偉大なる先人たちが、関心をいただき、自ら調査観測を行い、推考を重ね築き上げた「知のスパイラル」の下に安住し、そこから得られる「演繹的」な結果に満足し、初心を忘れていたのではないだろうか。「驕れる人も久しからず」を肝に銘じるべきであろう。（きもとたかし、紀本電子工業株式会社代表取締役・本学非常勤講師）

千里地理通信 第66号

2012年3月19日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35

関西大学文学部 地理学・地域環境学教室内

編集担当：野間晴雄 舟越寿尚 竹下裕隆

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

e-mail：moto@kansai-u.ac.jp

郵便振替：大阪00970-4-81149